

(資料)

## REFRANERO ESPAÑOL (33)

### スペインの諺辞典

Bernardo Villasaniz\* (ed.)

新井藍子\*\*

#### 1242. Pajar viejo enciéndose presto.

古い藁置き場は すぐに燃え上がる

- 年をとってから恋愛をする人をたとえていう。(バロス) 年配の人の恋愛感情をいう、或は、そう思い込むこと。(コレアス)
- 同義の諺には “Pajar viejo, cuando se enciende malo es de apagar. 古い藁置き場は、一度燃え上がると、消すのが厄介である”, “Pajar viejo, arde más presto. 古い藁置き場は、すぐに燃える” (年とった男性が一度情熱の虜になると、それを抑制するのが難しくなるということ—スバルビィ), “La leña, cuanto más seca más arde. たきぎは、乾いていればいるほど燃えやすい” (筆者の諺辞典, 諺 734 を参照のこと) などがある。
- 老いらくの恋は熱し易く、そう簡単には冷めないということ。こういう高齢者にふさわしくない行いをするを冷やかして “年寄りの冷や水” という。また, “老いの木登り”, “年寄りの夜歩き”, “年寄りの力自慢” などともいう。年を重ね、衰えたものが再び盛んになることをたとえて “老い木に花咲く”, “枯れ木に花” などということわざもあるが、これらは世間から忘れ去られ不遇であった人にもう一度幸運が巡っ

\* Edición y revisión. Facultad de Humanidades. Universidad de Fukuoka.

\*\* Profesora de español en la Universidad de Fukuoka (Facultad de Humanidades).

てくることを意味する。

**1243. Paja (La) vemos en el ojo ajeno y no la viga en el nuestro.**

隣人の目に おが屑が見えるのに  
自分の目の中の 丸太に気づかない

- 他人の欠点はどんなに小さくても気がつくのに、自分の大きな欠点は認めることができないことをいう。(パロス)
- これはよく知られているように、新約聖書の中のイエスのみ言葉である。“宝典”(コバルピナス)には、“Echar de ver la paja en el ojo del vezino y no advertir a la viga que trae sobre el suyo. 隣人の目におが屑が見えるのに、自分の目の中の丸太に気づかない”(偽善者を咎めているわれわれのメシアのおしえーコバルピナス)が収載されている。また、次のように、マタイ福音書(7-3)のイエスのみ言葉の一片をラテン語で引用している；“Quid autem vides festucam in oculo fratris tui et trabem in oculo tuo non vides?—¿Por qué te pones a mirar la paja que tiene tu hermano en el ojo, y no te fijas en el tronco que tú tienes en el tuyo? あなたは、兄弟の目にあるおが屑が見えるのに、なぜ自分の目の中の丸太に気づかないのか。”
- 人の欠点をあれこれあげつらう前に、自分の欠点に気づきそれを改めなさいとおしえている。日本にも同義で“人の七難より我が十難”，“人の背中は見えるが我が背中は見えぬ”などの諺がある。(筆者の諺辞典，諺 542を参照のこと)

**1244. Palabra de boca, piedra de honda.**

口から出た言葉 ばちんこではじいた石

- 遠くまで飛び、人を傷つける。(パロス)何かを言う時には、充分注意しなければならぬ、特に人を傷つけるかもしれない言葉は、一度口から出れば、それを拾い集めることはできない、深い穴や遠くに投げた石が戻ってこないように。(スバルビィ)
- コレアス諺集には次のように同義の諺がいくつか見られる；“Palabra y piedra suelta no tiene vuelta. 放たれた言葉と石は戻って来ない”，“Palabra echada, mal puede ser retornada. 言い放たれた言葉には、不快な言葉が返ってくるかもしれない”，“Palabra en el corazón, nunca quita la pasión. 心に刺さった言葉は、決して忘れられない”(屈辱の言葉—コレアス，相手を深く傷つけた言葉は決して消え去

ることはない—バロス), “La palabra que sale de la boca, nunca más torna. 口から出た言葉は、決して戻ってこない” など。

- これら一連の諺の主旨は、次のように、すでに旧約聖書 (箴言 26-27-28) に見いだされる；

“El que cava una fosa, en ella cae;      穴を掘る者は自分がそこに落ち  
al que hace rodar una roca,              石を転がせば  
la roca lo aplasta.                      その石は自分に返ってくる。”

- 人を傷つけるような言葉の威力を投げつけられた石にたとえた諺である。一度発せられた言葉は“覆水盆に返らず”と同じように取り返しがつかないからとてもこわい。後でいくら言い訳をしても、謝っても言われた相手は決して忘れない。取り返しがつかないというたとえには“吐いた唾は呑めぬ”, “落花枝に還らず” などもある。また、言葉の持つ威力のたとえには“舌の剣は命を絶つ”, “三寸の舌に五尺の身を滅ぼす”, “舌は禍いの門” などがある。

#### 1245. Palabras de santo y uñas de gato.

聖人の言葉に 猫の爪

- 表と裏のふたつの顔を持つ偽善者を言う。
- 同義の諺には, “Palabras dulces y melosas, a las veces traen ruines obras. 甘く優しい言葉, 卑しい行い”, “El gato de Marirramos halaga con la cola y araña con las manos. しっぽでじゃれつき, 爪でひっかくマリラモスの猫” (筆者の諺辞典, 諺 613 を参照のこと) などがある。また, コレアス諺集には, 相手を心地よくさせるような言葉づかいについての諺がいくつかある; “Palabras de lisonjero, ellas son muchas y sin provecho. へつらいの言葉は, たくさん発せられるが, どんな実も結ばない”, “Palabras de buen comedimiento, no obligan y dan contento. 礼儀正しい言葉は, 相手に強要しないが満足させる”, “Palabras de cortesía no obligan. 丁寧な言葉は強要しない” など。
- 日本にも偽善者をたとえたことわざ “口に蜜あり腹に剣あり”, “笑中に刀あり”, “口に甘い腹に毒” などがある。

### 1246. Palabras y plumas, el viento las lleva.

言葉と羽毛は 風が持っていく

- 人が約束した言葉には、あまり注意を払うべきではない、いつ破られるかもしれない、果たされないかもしれないから。まるで羽毛が風に飛ばされるように、軽々と言葉も持ち去られてしまうのである。(スバルビィ) 重要な事は適切に書類にして定めるべきである。(パロス)
- 異表現には “Palabras y plumas, el viento las tumba. 言葉と羽毛は、風が落下させる” がある。“宝典”(コバルピナス)には、標題の諺の他に、それとは反対の意の “Al buei por el cuerno y al hombre por la palabra. 牛は角で、人は言葉で縛られる”(牛は角をつかまえてくびぎの下に縛りつけるように、人は言った言葉で約束を果たせられる。—コバルピナス、筆者の諺辞典、諺52を参照のこと)が収載されている。どちらにしろ、言葉の重み、軽さはそれを言った人の品性、教養、人格次第であるということである。“口は口心は心”のような、口からでまかせの約束なら、簡単に破られてしまうだろうし、“口は心の門”のように、真心からでた約束なら、最後まで守られるであろう。

### 1247. Pan ajeno, poco engorda.

他人のパンでは あまり太らぬ

- 他人からの施しのパンを食べても、羞恥心から消化不良をおこすように、人の恩恵を受けるということは、それに対してお返しを強いられることになり、相手の要求に苦痛を感じるようになる。全く同じ意味の諺には “Pan ajeno, caro cuesta. 他人のパンは、高くつく” がある。(スバルビィ)
- 反対の諺 “Pan ajeno, hastío quita. 他人のパンは、むかつきをとってくれる”(苦勞せず、または金をかけずにもらったものは、いつでもよろこんで受け入れられる—スバルビィ)がスバルビィ諺辞典に、“Pan del vecino quita el hastío. 隣のパンは、むかつきをとってくれる”, “El pan de mi vecina, quita el hastío. うちの隣のパンは、むかつきをとってくれる”(他人のものは、いつもよく見える—コレアス)が、コレアス諺集にそれぞれ収載されている。
- ぴったり同義の諺には “他人の飯には骨がある”(他人の家で食べる飯は食べにくい、

また、他人の家に世話になるというのは気苦労が多く辛い、“隣の白飯より内の粟飯”、“他人の飯は強い”などがある。

**1248. Pan (El) comido, la compañía deshecha.**

ごはんが終われば つきあいも終わる

- 利益を受け取りさえすれば、友情も終わりにする人をたとえていう。(パロス) 苦しい時に受けた人の恩も、それが過ぎればすぐに忘れてしまうということ。
- いくつかの異表現が次のように見られる；“Comida hecha, compañía deshecha. ごはん食べたら、はい、さよなら”(筆者の諺辞典、諺 245 を参照のこと)、“Comida acabada, amistad terminada. 食事が終わり、友情も終わる”、“Aceituna comida, hueso afuera. オリーブの実食べたら、種は外へ吐き出せ”、“La comida comida, deshecha la compañía, o la compañía deshecha. ごはんが終われば、つきあいも終わる”など。
- 例題：ドン・キホーテ第二部 7 章、わしは恩知らずではないという意でサンチョがドン・キホーテに諺を言う、“No se dirá por mí, señor mío, el pan comido y la compañía deshecha. わしはね、旦那様、くめしがすんだね、ではあばよ>をきめこむやつ、と言われるようなことはしねえでがす。”(続編一、永田寛定訳)
- 人から受けた恩も過ぎればすぐに忘れてしまうという意のことわざがこちらにもいくつかある；“喉元過ぎれば熱さを忘れる”、“病治りて医師忘る”、“雨晴れて笠を忘る”など。

**1249. Pan de ayer, carne de hoy y vino de antaño, salud para todo el año.**

昨日のパンと今日の肉を食べて 古いワインを飲めば  
一年中 健康でいられる

- 置いておいたパン、新鮮な肉、熟成させたワインは、体の健康によいと言われている食べ物であり、飲み物である。(スバルビィ)
- コレアス諺集には異表現で“Pan de ayer, carne de hoy y vino de antaño, salud para todo el año; o traen al hombre sano; o mantienen el cuerpo sano. 昨日のパンと今日の肉を食べて、古いワインを飲めば、／一年中健康でいられる／人を健康

にしてくれる／体を健康に保ってくれる”，“Pan de ayer y vino de antaño, mantienen el hombre sano. 昨日のパンと古いワインは、人を健康に保ってくれる”などが収載されている。

- 日本には、次のように季節毎に出るしゅんのたべものが健康によいといっている諺がある；“秋刀魚まぐろが出ると按摩あんまが引ひくひ込む”，“蜜柑みかんが黄色きいろになると医者いしやが青あおくなる”，“柿かきが赤あかになると医者いしやが青あおくなる”など、これらのたべものが出るところは、気候もよくなり食欲もでて健康になり、医者にかかる人がいなくなるということ。

### 1250. Pan de boda, carne es de buitrera.

結婚式のパンは ハゲタカの餌である

- 自由を失うための餌食であるということ。(バロス) 結婚する者は、騙されて、一生を囚人として過ごすのである。(コレアス)
- 次の同義の諺がバロス、コレアス諺集にそれぞれ見られる，“Pan de boda, otro lo coma. 結婚式のパンは、ほかの奴が食えばいい”(結婚したくない者がいう—バロス、結婚の負担を怖れている者がいう—コレアス)
- その当時も、これほど男性にとって結婚するということは大変な負担なのであるということがわかって面白い。現代ならなおさらであろう。こちらには、“悪妻は一生の不作”，“女房の悪いは六十年の不作”，“悪妻は家の破滅”，“悪妻は百年の不作”などの諺がある。悪妻をめとると、自分の一生だけでなく、子孫の代まで悪影響を及ぼすというのであるから大変である。これでは、男性は結婚を怖れるのも当たり前である。とにかく“El melón y el casamiento, acertamiento. メロンと結婚は、当たりはずれ”(筆者の諺辞典、諺925を参照のこと)，“El melón y la mujer malos son de conocer. メロンと女は、食たべるとまずい”，“El melón y el casamiento ha de ser acertamiento. メロンと結婚は、うまく当てなければならぬ”などの諺がいつているように、いい結婚、悪い結婚はしてみないと分からないのである。それは全く女性にとっても同様である。

### 1251. Pan (El) del mezquino, dos veces es comido.

ケチな人は 二度パンを食べる

- 必要なものにケチケチする人は、鷹揚な人に比べてもっと出費する結果となる。

- 同義の諺には, “El dinero del mezquino dos veces se gasta. ケチな人は, 二度払う”, “El dinero del pobre, dos veces se gasta. 貧乏人は, 二度払う” (筆者の諺辞典, 諺 419 を参照のこと), “Dineros de avaro, dos veces van al mercado. けちんぼうの金は, 二度市場へ行く” などがある, いずれも質の悪い安物を買えば, もう一度, 後で買わなければならなくなるから, 結果的にはより多くの出費を強いられるようになるという意。
- 日本のことわざ “安物買いの銭失い”, “安物は高物”, “値切りて高買い”, “安かろう悪かろう”, “一文<sup>おし</sup>吝みの百知らず” などが同義でいずれも目先のわずかな出費を惜しんで後で損をする愚かさをいう。

**1252. Pan (El) de los bobos se gasta primero que el de los otros.**

愚か者のパンは 他の者のパンより 最初になくなる

- 周りにいる者たちが, 消費してしまうから。(パロス) 友だちを喜ばせるために何にも考えずにケーキやドーナツを作ってしまうように, 遺産を愚かなやり方で使い尽くすことをたとえている。(コレアス)
- 類義の諺には “Haceos miel y comeos han las moscas. 蜜のように甘いと, ハエどもが食べてしまう” (他人にすぐに施しをするようなお人好しな愚か者は, たいてい皆から都合のいいように利用されてしまう—筆者の諺辞典, 諺 640 を参照のこと), “Haceos oveja y comeros han lobos. 羊のようにおとなしいと, 狼どもが平らげる” などがある。
- 日本の同義のことわざには “甘い物に蟻がつく” があり, たいてい人というものは, 利にさといということを教えてくれる。

**1253. Pan para hoy y hambre para mañana.**

今日のパン 明日の空腹

- あらゆることは確実ではなく, 長続きしないことをいう (パロス)
- 旧約聖書 (箴言 27-1-2) でもこう言っている ;  

No presumas del día de mañana,	明日のことを誇るな,
pues no sabes lo que el mañana	一日のうちに何が生まれるか
traerá.	知らないのだから。

- スバルビィ諺辞典には、次の異表現 “Eso es pan para hoy y hambre para mañana. 同訳” (役に立つあらゆるものは、長持ちしないというたとえ—スバルビィ) が見られる。
- 同義の日本の諺には “昨日の<sup>つづれ</sup>襦袢今日の錦”, “昨日の花は今日の塵” などがあり、人の世の不確実性、変わりやすさを謳う。

#### 1254. Pan por pan y vino por vino.

パンをパンと呼び ワインをワインと呼ぶ

- そのように、ものごとをはっきりと言う。(コレアス) 人が相手に向かって遠回しの表現を使うことなく、率直に明確に話すことをいう。(スバルビィ) ずばずばとあからさまに話すこと。(コバルビアス)
- ぴったりした日本語の表現なら “<sup>きぬ</sup>歯に衣着せぬ” だろう、言いたいこと、考えていることを遠慮なくずばりいうこと。(故事ことわざ活用辞典)

#### 1255. Pan y vino andan camino, que no mozo garrido.

旅の道連れには いい男より パンとワイン

- たくさん歩くためには、たくさん食べなければならない。(パロス) 旅をしている間は尚更である。昔の旅は長い道のりを歩かなくてはならないので、パンとワインは必需品であった。そこから、毎日仕事をするためには、しっかりと食べる必要がある、の意。
- 同義では、すでに見てきた “Con pan y vino se anda el camino. 旅の道連れは、パンとぶどう酒” (筆者の諺辞典、諺 288 を参照のこと) がある。標題のことわざにはユーモアがたっぷりある、女が旅をするときには、いい男が旅の道連れになってくれれば楽しいにちがいない。後半の部分は、コレアス諺集には異表現が見られる, “... que, no mozo ardido; o garrido. 向こう見ずな男; 或は、いい男” ともかく向こう見ずでいい男なら尚更いい、昔の旅の道中には追い剥ぎなどが出没してとても危険であった。また、同諺集には、類義の諺 “Pan y vino y carne crían buena sangre. パン、ワインと肉が良質な血をつくる”, “Pan y vino y carne, quitan hambre. パン、ワインと肉が空腹を癒してくれる” などが収載されている。コバルビアスの “宝典” には、 “Con pan y vino se anda el camino.” のほうが収載されているが、次の

例題に見られるように、セレスティーナには標題の諺が引用されている。

- 例題：セレスティーナ第4幕，パンやぶどう酒ほどの食料はないと，セレスティーナが諺を引き合いにだす，“...que como dicen：<pan y vino anda camino, que no mozo garrido>. たしかに諺にもあるように，向こう見ずない男よりは，パンと葡萄酒のほうが道中には役に立ちます。”(魔女セレスティーナ，大島正訳)

### 1256. Pan y vino, de casa de tu enemigo.

パンとワインは 知らない店から買え

- そうすべきである。顔見知りの友より知らない人の店だったら値切って安く買うことができる。次の諺がそれを言い当てている，“Lo malo me compre el amigo, que lo bueno ello está vendido. 悪い品物は，友が買ってくれよう，良い品物は売れているから”(コレアス) “enemigo—敵”は，“extraño—見知らぬ者”の意。友達の店で買うより，親しくしていない人の店なら値切ったりできるし，好きなように気に入ったものを選べるから。(パロス)
- パンとワインには次のような諺もある，“Pan y vino, un año tuyo y otro de tu vecino. パンとワイン，今年はあなたのを，次の年はあなたの隣人のを”(食べ，飲みましょう) スバルビィによると，少し農地が離れているだけで，毎年のパンとワインの収穫高に大きな差ができる。それにしても，この諺を口にだしている者は，自分のところのパンとワインについては一切触れていない厚かましい人と思われる。

### 1257. Para cada altar hay su frontal.

どんな祭壇にも 似合った掛け布

- ふたりの不器量な似た者同士が結婚することをいう。(コレアス)
- 同義の諺には，“Cada oveja con su pareja. どんな羊にも，似合った連れ”(牛は牛連れ，馬は馬連れ)，筆者の諺辞典，諺196を参照)，“Todas las aves, con sus pares, o todas las aves buscan, sus iguales. 鳥にも似合いのつれ，或るいは，どんな鳥も似合いのつれを求める”，“Nunca falta un roto para un descosido. 破れ鍋に欠け蓋”(同辞典，諺1188を参照のこと，だれにでもその人に似合った伴侶があるものである，特に不器量な似た者同士が結婚するときに言う)，“No hay olla tan fea que no halle su cobertera. 破れ鍋に綴じ蓋”(同諺辞典，諺1137を参照)

などがある。

- 同義の日本の諺は多数ある，“合った釜に似合った蓋”，“似合い似合いの釜の蓋”，“似た者夫婦”，“牛は牛連れ馬は馬連れ”など。

**1258. Para dar y tener, seso es menester.**

与えたり もらったりは ほどほどに

- 人からもらったり，人に上げたりすることはほどほどにということ。また，上げるだけではなく，いくらかは，自分のためにもとっておくことは必要である。すでに筆者の諺辞典，諺 378 で異表現 “El dar y el tener, seso ha menester. 受け取るのも，上げるのも，知恵が必要” を見てきた。ドン・キホーテ第二部，43 章では，こちらの表現が引用されているが，第二部，58 章では，標題の表現がサンチョの口を借りて用いられている。当時は，サンチョがことわざを少し変えて使ったと筆者は思ったが，そうではなく見出しの表現もコレアス，バロス諺集にそれぞれ収載されている。
- 例題：ドン・キホーテ第二部，58 章，（自分の着ていた合羽を乞食に半分切って与えたという）聖マルチノの像を見て，ドン・キホーテが，冬でなかったら，慈悲心のあるお方だから，全部あげたであろうにと言うのに対して，“No debió de ser eso-dijo Sancho-, sino que se debió de atener al refrán que dicen: que para dar y tener, seso es menester. きっと，そうでねえだよと，サンチョ。ことわざにいうく取らずも受けるも，ほどほどに>ってえことを考えただよ”（続編三，高橋正武訳）

**1259. Para el amor y muerte no hay cosa ni casa fuerte.**

恋と死には どんな物も どんな家も 頑丈ではない

- それらから守ってくれるものも，家もないということ。（コレアス）
- 他のいくつかの諺がそれを裏付けてくれるだろう，初めは“死”から見てみよう；“Para todo hay remedio sino para la muerte; o para todo hay maña. どんなことにも，打つ手／方法がある，死ぬことのほかは”（筆者の諺辞典，諺 1268 を参照のこと），“La muerte es sorda. 死神はつんぼ”（同辞典，諺 984 を参照，死神は，来るのを引き止める人々の叫び声など聞こえない），“La muerte a nadie perdona. 死は誰をも容赦しない”，“La muerte lo iguala todo, lo ataja todo, lo barre todo.

死は全てを等しくし、全てを阻止し、全てを運び去る”など、また、“恋”については、“El amor es invisible, y entra y sale por do quiere. 恋は気づかれずに、好きなところに入ったたり出たり”(筆者の諺辞典、諺 63 を参照)、“El amor no tiene cerraderos en la bolsa, ni cilleros. 恋には財布の留め金もないし、倉庫の番人もいない”(いつでも好きなときに入ったたり出たりできる)など、恋と死は、ともに誰の目にも見えないし、どこからでも、いつでも、勝手きままに入出入りできる、そして、誰もそれらを止めることはできないのである。

**1260. Para el ladrón no hay casa fuerte.**

泥棒には 堅固な家はない

- 悪者から身を守ろうとしてあらゆる防衛手段を講じたとしても、彼らの悪辣なやり方に勝つことはできない。(パロス)
- 泥棒を防ぐのは難しく、また、防ぎようがない、そこから、どんな悪意から身を守るのには難しいの意。日本のことわざにはぴったり同義の“盗人の隙はあれども<sup>ひま</sup>も<sup>まも</sup>り手の隙なし”がある、泥棒は、盗みに入るとき以外は休んでいられるが、防ぐほうは、いつ入られるかわからないので一時も油断できないの意。(故事ことわざ活用辞典)

**1261. Para el mal que hoy acaba no es remedio el de mañana.**

今日苦しむ病いには 明日の薬は効かない

- 今日、死ぬほど苦しんでいる者を明日、救うのは遅い。(コレアス諺集)
- 災難に対処するには、迅速に適切な時期にすべきであって、それをはずしては何の役にも立たないということ。そこから、何事をするにも、それに適した時期というものがあ、時期に遅れてしまえば、何の役にも立たなくなるという意。
- 同義の諺は次のように多数ある；“No es bueno lo que no viene en su tiempo. 時節に到来しないものは良くない(物には時節)”(筆者の諺辞典、諺 1083 を参照のこと)、“Cada cosa en su tiempo y los nabos en Adviento. どんな事にも時期がある、かぶのしゅんは待臨節”(同諺辞典、諺 187 を参照)、“A su tiempo se cogen las uvas, cuando están maduras. 熟した時期に、ぶどうは摘みとられる”(同諺辞典、諺 100 を参照)、“Al asno muerto, la cebada al rabo. 死んだロバのしっぽに麦を積む(後の祭り)”など。

- こちらでよく使われている同義の諺には“物には時節”，“事は時節”，“物に時あり”，また，遅れて，間に合わなくなってしまっは何の役にも立たなくなるという意の“後の祭り”，“十日の菊六日の菖蒲”などがある。

**1262. Para el que se convida, no hay mala comida.**

ごちそうになる者には 不味い食べ物はない

- 招待されなで他人の家で食事をすれば，好きでない料理でも，だしてくれるものを無理にでも食べなくてはならない，おまけに食事が終われば，お礼まで言わなくてはならない。(スバルビィ)
- 同義の諺には，“El que se convida, fácil es de hartar. ごちそうになる者は，すぐに腹がいっぱいになる”（遠慮して何杯もごはんのおかわりができない，筆者の諺辞典，諺 502 を参照のこと），“No sabe bien la cena que se come en mesa ajena. 他人の食卓の夕飯は，美味しくない”（他人の家の世話になるのは気苦労が多い，同辞典，諺 1168 を参照のこと）などがある。
- すでに何千年も前に他人の家で居候になる惨めさ，辛さを語り，居候の汚名だけは着るなとわれわれに忠告してくれるのは，旧約聖書である；“Más vale vivir pobre en choza propia que banquetear en casa ajena. 貧しくとも，<sup>はり</sup>梁がむき出しのわが家で暮らすのは，他人の家で豪華な食事をするよりましである。Conténtate con lo que tengas, poco o mucho, para que no te reprochen el vivir a costa de otros. 持ち物が多くても少なくとも，それで満足し，居候の汚名は着るな。Triste vida es andar de casa en casa; donde eres forastero, no puedes chistar palabra. 家から家へと渡り歩く生活は何とも惨めで，居候の身では，言いたいことも言えない。……; Qué duro es para una persona sensata escuchar que lo injurian por vivir en casa ajena y le hacen reproches por deber dinero! 分別のある人にとって耐え難いことは，他人の家で聞く叱責と金を借りた相手からの屈辱である。”（シラ書<集会の書>，29-22-28）
- 日本の類義の諺には“居候の三杯目”，“居候三杯目にはそっと出し”，“他人のめしには刺がある”などがある。ここでも，居候の肩身の狭さ，辛さが表現されている。

**1263. Para los desdichados se hizo la horca.**

不運な者のために 絞首台は作られた

- この世の正義といわれているものは、身よりのない弱い者が、勢力ある者の罪を引き受けて犠牲になるのである。(バロス)
- コバルピアス (宝典) によると、“いつでも、身元引受人のいない貧しい者や不運な者が不当な扱いを受けるのである。力のある者、縁故がある恵まれた者は、全てに違反しても何にも起こらないが、力のない者は、くもの巣に搦めとられたハエのように法律により厳しく処刑されるのである。”また、コレアス (諺集) は、“この諺により、セギディーリャ (7音節、5音節の詩行を組み合わせた4行、7行の詩一筆者) でこう謳うのである、<泥棒には訴訟文書を作ったが、不運な者には絞首台と諸々のものを作った>”とコメントしている。
- この世では、勢力ある巨悪の犠牲になるのは、いつでも下っ端の不運な者であるという意で、こちらでも“網にかかるは雑魚ばかり”，“米食った犬が叩かれずに糠食った犬が叩かれる”などの諺が端的にそのことを言い表している。

**1264. Para muestra basta un botón.**

見本には 一個のボタンで 十分だ

- ある事を実証するためには、すでに起きたただ一つの事実だけで十分であるということをととえて言う。(バロス)
- 同義の口語的表現には、“Por la muestra se conoce el paño. 見本を見れば品物が分かる”(一つの証拠があれば、その他の事を推測できる、或は、一回の行いだけで人を判断する時に言う—スペイン王立アカデミー辞書)
- 反義の諺は次のようにいくつかある；“Una golondrina no hace verano, ni una sola virtud bienaventurado. 一羽の燕の飛来で、夏が来たわけではないし、一回きりの善行で善い人とはならない”(一回のみの行いでは、習慣とはならないので、その行為により人を判断することはできない—バロス)，“Un solo acto no hace hábito. 一回きりの行いは習慣とはならない”，“Un solo golpe no derriba un roble. 一撃のみでは、樫の木を倒せない”，“Un tizón solo no arde sin otro. 一個きりの燃えさしでは燃えない”，など。

**1265. Para poca salud más vale morirse.**

病気がちでいるより 死んだほうがまし

- 一人からの謝礼、報酬、贈り物などが、全力をつくした仕事とか功績に釣り合わない時には、少しもらうよりも、拒否したほうがましであるということをととえて言う。
- 諺の文字通りの表現は、諺特有の誇張表現であるが、実際、日本の諺には“食うに倒れず病むに倒れる”があるように、病気にかかれれば医者への支払いがかさんで破産する羽目にもなる。それが長引けば死んだほうがましということにもなる。紀元前のずっと前に書かれた旧約聖書には、多くの格言、諺のもとになっている言葉が見いだされるが、見出しの諺についても次のシラ書をひもといて見ると同様の主旨がうかがえる；“No hay riqueza mayor que la buena salud, ni bien más grande que la felicidad. 体の健康にまさる富はなく、心の喜びにまさる楽しみもない。Preferible la muerte a una vida infeliz, y el descanso eterno a estar siempre sufriendo. っらい生活を送るよりは、死んだ方がよく、長く患うよりは、永遠の安息の方がよい。”(シラ書<集会の書>30-16-18)
- 人間というものは、何事にも中途半端が嫌いなのである。病気がちで死んだような人生を送るよりもいっそ本当に死んでしまった方がいいと思う場合もあるし、正当に仕事を評価されなかったような場合には、相手に対して毅然とした態度を取って誇りを失わないことが大切なのである。

**1266. Para próspera vida, arte, orden y medida.**

栄えある人生には 技<sup>わざ</sup>、秩序、対策

- 手に職を持ち、この浮き世における己の身のほどを知り、長い人生という道中で起こる予期せぬ出来事に冷静に対処していく智慧があれば、失敗はしないであろう。
- “arte—技”の必要性については、“宝典”（コバルビアス）にこういう諺が見られる，“Quien tiene arte, va por toda parte. 技<sup>わざ</sup>がある者は、どんな所にも行ける”（職に通じている者は、食べるために稼ぐことができる—コバルビアス）
- スペインの諺のいう“技、秩序、対策”に加えて、日本の諺がいう“柔軟性”もとても大切であろう；“浮世渡らば豆腐で渡れ”（世の中を上手に渡るには、豆腐のように形はきちんと四角でまじめに、内面は融通の利く柔軟さを保てというおしえ—故事

ことわざ活用辞典) ただし、実際には、熟練した職人には、頑固で融通の利かない者が多いと言われているが。

**1267. Para que anden los carros hay que untarlos.**

荷車が動くためには 油を塗らなければならぬ

- 荷車の車輪が滑らかに動くためには、油が必要なように、人を動かすためには、報酬を与えなければならないというたとえ。
- 同義に “Por el pan baila el can. パンのために犬も踊る” (筆者の諺辞典, 諺 1349 を参照) がある。ちなみに, “untar—塗る” には, “買収する, 袖の下を贈る” の意味がある。“carro—荷車, 馬車” を用いて, 標題と類義の諺が “宝典, コバルピアス” に次のように, 見られる, “Quien su carro unta, sus bueyes ayuda. 荷車に油を塗る者は, 自分のところの牛を手伝っている”, コバルピアスの解説を要約すると; 土地の一部を与えている小作人の種まきを手伝う地主は, 商売上手である, また, 使用人を大切に扱う主人には, 使用人のほうでもよく仕えるものである。家畜についても同じことが言えるだろう, 泥土から動けなくなった家畜の足を引っこめいたり, その他諸々のことで, 家畜を上手に管理すれば, 家畜は, もっと, しっかりと働くことができる。“el carro—荷車” にはこういう諺もある; <Lo que ha de cantar el carro canta la carreta. 荷車が歌うだろうことを二輪の荷車が歌う>ここでいう “carreta—二輪の荷車” は, “carro—荷車, 馬車” のようには, たくさんの荷物を長い距離運べない。少ししか荷物を運んでいないのに高い音や低い音をキーキーと出して動いていく。その反対に “carro—荷車, 馬車” のほうは, 重い荷を運んでも, 車輪は音を立てずに回っていく。つまりこの諺は, <取引のある二人の人がいて, 正当性がない者のほうが, 文句を並べ立て, もう一人のほうが, むっとして黙ってしまい, 我慢していることをたとえているのである。—コバルピアス>
- 自分の思うように人を上手に動かすためには, それなりの謝礼, 報酬, 贈り物などが必要であると言っている。

**1268. Para todo hay remedio sino para la muerte.**

どんなことにも 打つ手がある 死ぬことのほかは

- “死” のみは, どんな手段を用いても人は避けることはできないが, 人を予期しない

- 時に襲ってくるその他諸々の災厄は、手段を講じれば避けることが出来るし、また解決することもできる。不運に見舞われた人に対する励ましの言葉ともなる格言である。
- コレアス諺集には異表現 “Para todo hay remedio, sino para la muerte; o para todo hay maña. どんなことにも、打つ手／方法がある、死ぬことのほかは” が収載されている。類義の諺には、先に見てきた “Para el amor y muerte no hay cosa ni casa fuerte. 恋と死には、どんな物もどんな家も頑丈ではない” (筆者の諺辞典、諺 1259 を参照のこと) がある。
  - 例題 1：ドン・キホーテ第二部 43 章、いよいよサンチョが島の太守になることになり、ドン・キホーテがサンチョに細々と注意を与える、その内の一つが自分の名前を署名することである、読み書きの出来ないサンチョは、こう返事する、“...cuanto más que fingiré que tengo tullida la mano derecha, y haré que firme otro por mí; que para todo hay remedio, si no es para la muerte;ましてね、わしゃ右手がしびれてると言っ、署名の代わりにだれかにさせっちめえまさ。なにあに、どんなことにも方法はあるだ、死神をおっぱらうことでなかったらね。(統編二、永田寛定訳)
  - 例題 2：ドン・キホーテ第二部 64 章、モーロの美しい娘の恋人、囚われのドン・グレゴリオ救出に関して、ドン・キホーテは、自分なら武器と馬で救いだせると言う、それに対してその方法では無理だというサンチョに、“—Para todo hay remedio, si no es para la muerte—respondió don Quijote. <なにごとにも手だてはあるものじゃ、死ぬことのほかはな>と、ドン・キホーテ” (統編三、高橋正武訳)

### 1269. Para vender haz orejas de mercader.

上手に売するためには 分からないふりをしなさい

- 交渉をうまく運ぶためには、数々の支障や屈辱さえも我慢しなければならない。(バロス)
- コレアス諺集には、異表現 “Para vender haz orejas de mercader; o hay orejas de mercader. 上手に売するためには、分からないふりをしなさい、或は、分からないふりをする” が見られる。
- 口語的表現：“hacer oídos de mercader—分からない(知らない)振りをする”，コバルビアスの“宝典”には，“hazer orejas de mercader—債権者が詰め寄る言葉が分からないふりをする”，“dar orejas—を信用する，信じる”，“cerrar las

orejas—道理を聞き分けない”などの成句が見られる。

**1270. Para verdades, el tiempo, y para justicias, Dios.**

真実には 時, 正義には 神

- 本当の事実が分かるまでは、長い時の経過が必要であり、正義の審判は神が下すのである。
- 旧約聖書（詩編 58-12）の中には、こういう言葉が見いだされる；
 

Y entonces se dirá:	人は言う。
“¡ Vale la pena ser fiel!	“神に従う人は必ず実を結ぶ。
¡Hay un Dios que juzga al	神はいます。
mundo!”	神はこの地を裁かれる。”